〔特　　集：第7回国際家族看護学会とカナダ家族看護研修ツアーの成果報告〕

バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学関連コロンビア州立の子どもと女性のヘルスセンター

内藤　直子　　佐々木睦子

I. はじめに

2005年カナダの五月晴れの朝，私達研修ツアーの一行を乗せたバスは，バンクーバーの町並みを通り，バンクーバー最大規模の子ども専門病院と女性専門病院の2部門が併設されているChildren's & Women's Health Center of British Columbiaへ到着し，Rosella Jefferson小児看護専門看護師(Clinical Nurse Specialist：以下CNS）と，助産師でWoman's Health CNSの2人から案内と説明を受けました．同センターの理念は，文化や社会性の異なる多国籍人の多いカナダにおいて，「女性と子どもを中心にして，その人が力を引き出せるよう，その人を中心にしたケアを考える」ことであると力強く話されました．そして，社会的な役割は，「女性と児童や青年期（新生児～18歳）への健康教育を共に考え実践し，機能回復や発達へ向けた自己の力が高まるようなケアを専門的に提供することである．また，ブリティッシュコロンビア大学関連病院として，臨床教育や臨床研究も活発に共同している」と理解しましたので，次に感想を含んで報告します．

II. Children's Hospital（子ども病院部門）の概要

子ども病院部門は，ブリティッシュコロンビア州立で，州内唯一の小児専門の第3次医療（高度な専門的医療）機関として，心臓切開手術，腎臓移植，腫瘍，神経外科，精神医療などが提供され，地域により退院後のフォローアップを行っています．その他，Medical Day Unit（診療部門）には，Diabetes Day Unit（糖尿病），Renal Dialysis Unit（腎臓透析），Asthma & Allergy prevention Clinic（喘息とアレルギーの予防医学）などがあり広範囲です．殊に，治療中の児童が地域社会へ復帰しやすいよう外来治療も発達し，日帰り手術をはじめ様々なサービスが提供されていました．これらは地域社会の中で子ども達の成長を支援するプログラムであり，2004年には年間総数で166,977人の患児を訪問し在宅ケアを実践していました．Children's Hospital（子ども病院部門）の印象的な写真を撮りましたので，次に掲載します．

1）Family Resource Library（家族のための図書室）

家族のための図書室（写真1）が充実しており，患者や家族も主体的に利用でき，診療のコンプライアンスとナーシングケアが，効果的に行われるよう環境の工夫が見られました．離乳食の案内やニュースレターの発行も定期的にされており，家族を大切に

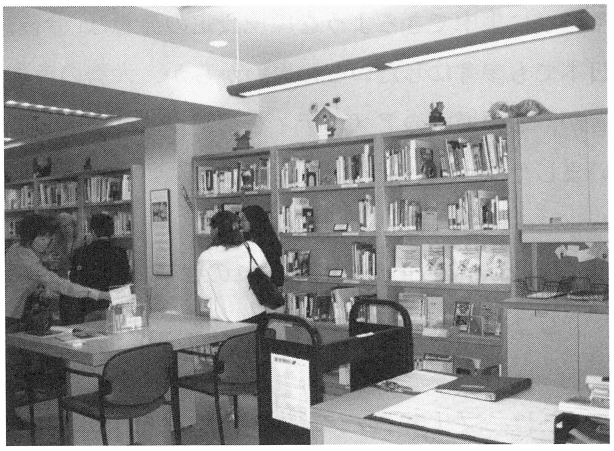

写真1．家族のための図書室

香川大学医学部看護学科

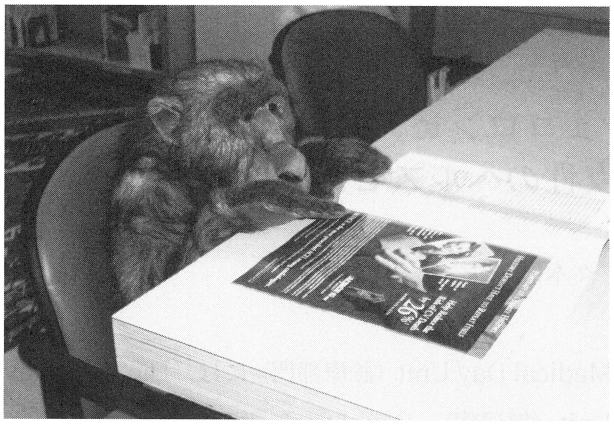

写真2. お猿さんがプレイルームで読書

写真3. 病院内学級

したケアの工夫が(写真2)，アメニティから伝わってきました.

2) School Room（病院内学級）

病院内学級として2教室が設置され，様々な指導媒体が並んでおり，子どもの気持ちを高揚させる配置が施されているように見えました(写真3)．しかし,最近では外来治療が進歩してきたため,院内学級の利用は少なくなってきているそうでした.

3) Children's Books Play Room

子どものための絵本や図書が整備されているプレイルームでは，検査や治療に対する不安を取り除くためとして，CT検査のミニチュアや輸液のセットなど精巧に作られており(写真4)，楽しい雰囲気の中で遊びを通して治療が理解できるよう工夫し，検査への不安が取り除かれるよう細やかな配慮がされていました.特に,図書やプレイルームは子ども中心に内容が充実しており，子どもが興味を持って読書や遊びに集中できるような環境設定の発想は,今後,日本でも参考にしたいとの思いからか，大勢の参加者が，この場所のアメニティをデジカメに撮影していました.

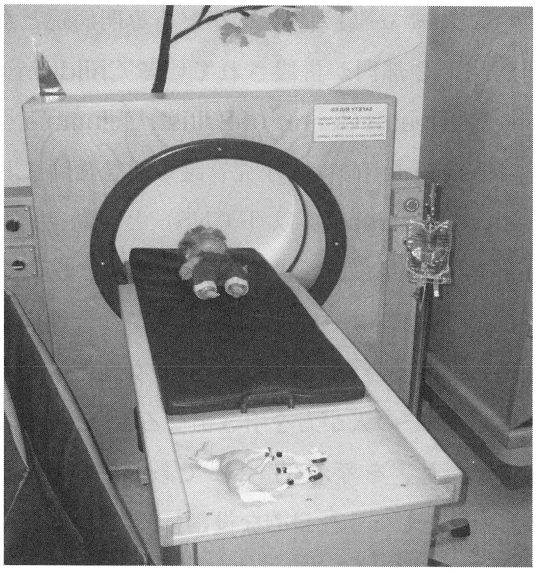

写真4. お馬さんと一緒にCTを撮りましょう！

III. Children's Hospital はだれのケアをするのでしょうか

ここは，ブリティッシュコロンビア州内の障害を持つ子ども達の，発達や機能回復のためのサービス機関です.後天的脳損傷による複雑な発達障害,アルコールやドラッグによる出生前障害,運動神経障害,感覚障害などがある障害児へのケアを提供しています．対象の80%がバンクーバー市郊外に在住のため,遠くまで出張診療が行われています.この施設では身体障害児の地域社会への復帰を努力目標にされており，2004年は年間総数で7,942人の身体障害児にサービスが提供されました．子どもと家族のための病院として，さらには地域の中核的な子ども病院の役割を果たすため，Websiteで情報提供や電話相談にも対応するなど，ネットワークの中心として常によりよいケアの提供ができるよう，環境整備さ

れていました.

IV. Children's Hospital の理念

Children's Hospital の看護の社会的使命の意味を，筆者らは，次のように解釈してみました.

"Better health for children and youth, achieved with partners who work together to ensure access to the best care in the best setting"

「児童と青年のより良い健康は，最善の環境の中で,最高のケアを対象に確実に実践するために,一緒に健康問題に取り組むパートナー（家族・子ども・女性・地域等）と,共同して努力するプロセスを通して，看護者も共に獲得される.」

V. 家族を中心としたアプローチとケア

Rosella Jefferson 小児看護 CNS は,「看護者は,家族を中心としたアプローチを活用して，乳幼児や青年へ優れたヘルスケアを提供することが，ケアの根本である」と熱っぽく説明されました. そして，日頃考えておられる独自の看護実践活動へのビリーフは,「家族はケアにおけるパートナーであり，看護者は家族の教育と地域社会のケア提供者であり，共同するプロセスに意味がある. 最終的にパートナーが力をつけることでケアも実証される. また,施設内には家族資源としての図書館も整備することが必要である. さらに,看護者は,周産期の女性が分娩誘発時に麻酔を用いた場合には,ケアを提供し,分娩後も麻酔覚醒期には，ケア施設でケアを提供する必要があるし，母子同室の促進も重要である」と語られました.

このように，ご自分の看護観について自信を持って他者に語り,看護実践に反映させたお話に,感動したり，元気を頂いたりしました.

日本の国土と異なり,広大なカナダは人口も多く,専門的な施設は集中型になりがちですが，Health Center は，患者や家族の負担が少なくなるよう，治療的機能のみでなく,予防医学や健康増進,機能回復や障害児のケアまでが，家族ケアを中心にしたアプローチで一貫していました. 情報交換や支援の継続性でも，子どもたちや家族が安心して医療ケアが受けられる施設役割機能を備え，ケアの中心に家族をパートナーと位置づけて共同することの意義を強調されていました. これらの考えが,施設のアメニティ全体から,そこはかとなく伝わってくるようでした.

VI. 看護の役割はどこまで実践されているのでしょうか

この病院は，子どもと家族のために看護実践活動の評価やデータ分析及び家族の教育を，次の項目で計画的に，実施していました.

—Perform（実践）
- ＊Assessments（査定・評価）
- ＊analysis of data（データ分析）
- ＊implementation of therapies（治療方法）
- ＊evaluation of effectiveness of treatments（治療の効果の評価）

—Provide（提供）
- ＊patient and family education（患者と家族の教育）

—Advocate（擁護）
- ＊For patient and family（患者と家族のため）

説明は主として,項目の列挙でしたが,根拠に基づいてより良いケア実践を目指す姿勢が読みとれました. 日本では,家族を丸ごと受けとめてケアする施設は，まだ少なく,患者や家族は,病気になると病院や施設を転々する状況も散見します. 誰のための医療や看護なのか，大切にしなければならないものはなにか,改めて,家族の持つ意味と家族看護のあり方を考える研修ツアーでした.

VII. Woman&Family Center女性と家族センターの分娩件数とCNS活動

このセンターは，子ども病院部門と接続した同じ建物に位置し，女性に集中した家族ケアが実践され，ヘルスプロモーションの考えに依拠しています．説明された助産師CNSは，1年間に7,000人もの新生児が誕生し，19室のLDR分娩室（分娩の3時期，Labor陣痛期，Delivery分娩期，Recovery産褥回復期，のいずれの時期も同じ部屋で過ごすことができる機能を有した分娩室）が稼働しており，現在は700人の看護師がケアし，産科医師が6人，及びCNS資格を有した助産師が10人勤務していると話されました．カナダでは，2～3年前まで助産師教育が歴史的に存在せず，アメリカ，イギリス，オーストラリア等で資格を得た助産師に依存しており，多くの施設で極めて少数の助産師が勤務していると説明され，日本の現状と大きく異なることに驚きました．

産褥の入院期間は12～24時間と短期間であり，ご存知の通り帝王切開でも出産2日後には退院します．帝王切開率は29%のため，ブリティッシュコロンビア大学と共同研究プロジェクトで，看護師が在宅ケアをすると帝王切開率が低下できるという研究が進行中です．また，リプロダクティブケアのプログラムもあり，どのような子どもが亡くなった場合でも，24時間以内に保健師が両親へ電話訪問して，チームケアを実践していました．その他，ハイリスク児に関して，ブリティッシュコロンビア州立研究センターと共同で2つの研究が進行中でした．バンクーバー市のすべてのハイリスク児の出産は，このセンターに集中して搬送され，助産師や看護師やソーシャルワーカーのサービス提供を受けており，外来からの在宅ケアの年間総数は25万人だそうです．

看護サービスの内容は，母乳栄養推進をはじめ，10歳～24歳のヘルスプモーションや，高齢出産，更年期ケア，失禁，人工妊娠中絶後のケア，出産後のうつ病状態のケア，薬物・アルコール依存症のケア，HIV・エイズの女性のケア，性的虐待，ドメステックバイオレンス，アンドロジニー（Androgyny：心理的両性具有性．個人の中に男性性，女性性にとらわれず，両者を認識し調和させている），原住民のケア等です．

近年，カナダでも日本と同様に，精神科を受診する産後うつ状態の女性が増加傾向にあり，25%にも達しており，訪問ケアで16%に減少させているとのことでした．また，産後の母子愛着障害は，入院させてのケアは実践されていません．カナダの産後うつ状態の女性が増加傾向の理由は，核家族化，広大な国土で実家が遠距離，移民が多いことも影響しているようです．ブリティッシュコロンビア州の育児休業制度は，産後の女性の支援が進んでおり，1年間の育休が保障され，経済的保障として産後16週間は100%のサラリーが支給され，12カ月の育休取得の場合は，70%のサラリーが保障されています．

写真5は，研修ツアー後，満足した表情の参加者全員の記念スナップです．

VIII. まとめ

カナダのChildren's & Women's Health Center of British Columbiaの研修ツアーは，2人のCNSのパワーフルなお話から，看護職のプライドとアイデンティティが十分伝わってきました．

お会いしたCNSは，カナダで特別ではなく，一般的に高い実践能力を教育されておられると推察しました．なぜなら，今回，Health Centerのアメニティを見学し，受けた説明内容から，前述のごとく，看護の使命とそれに依拠した地域在宅看護ケアシステムを，看護職者自身で構築し，実践して研究で確認し，より良いケアサービスを提供していると私達は推察したからです．カナダのCNSも，日本の看護師と同様に，多忙でした．しかし，CNSのリーダーシップを発揮して，女性と子どものリプロダクティブへ

写真5. 子ども病院らの研修ツアー記念スナップ（2005.6 カナダ）

写真6. 第7回 Hayes 学術集会長と第8回 Theinpichet 学術集会長と Bell 編集委員長と筆者ら（2005.6 カナダ）

ルスライツの視点から自己決定を見守り，家族のエンパワーメントを引き出せるよう地域社会へ看護サービスを提供していると満面の笑みで生き生きと説明されました．

今後，可能で有れば，是非，外来や地域で活躍するブリティッシュコロンビア州の CNS の実践活動を見学してみたいと思います．その看護サービスを提供された女性や子どもや家族の生の声をナラティブして頂き，日本の看護サービスの提供内容との共通性と差異を見つめたく思うのは私達のみでしょうか．

最後に，カナダ家族看護研修ツアーを企画して下さいました森山先生を始め学会関係や愉快な参加者の皆様に感謝します．そして，タイ王国で開催される第8回国際家族看護学会で，多くの皆様とお会いできることを願って，第7回国際家族看護学の Victoria University の Virginia Hayes 学術集会長と第8回 Burapha University の Suntharawadee Theinpichet 学術集会長及び Calgary University の Janice Bell 編集委員長（Journal of Family Nursing）と一緒の筆者らの写真6を，掲載します．

なお，今回記述の内容と写真及び英文は，Rosella Jefferson 専門看護師（CNS）に文章で承諾を得た．

文責は，香大医学部の内藤（E-mail : nnaito@med.Kagawa-u.ac.jp）です．